

2013年 6月 6日

2013年3月期 決算説明会

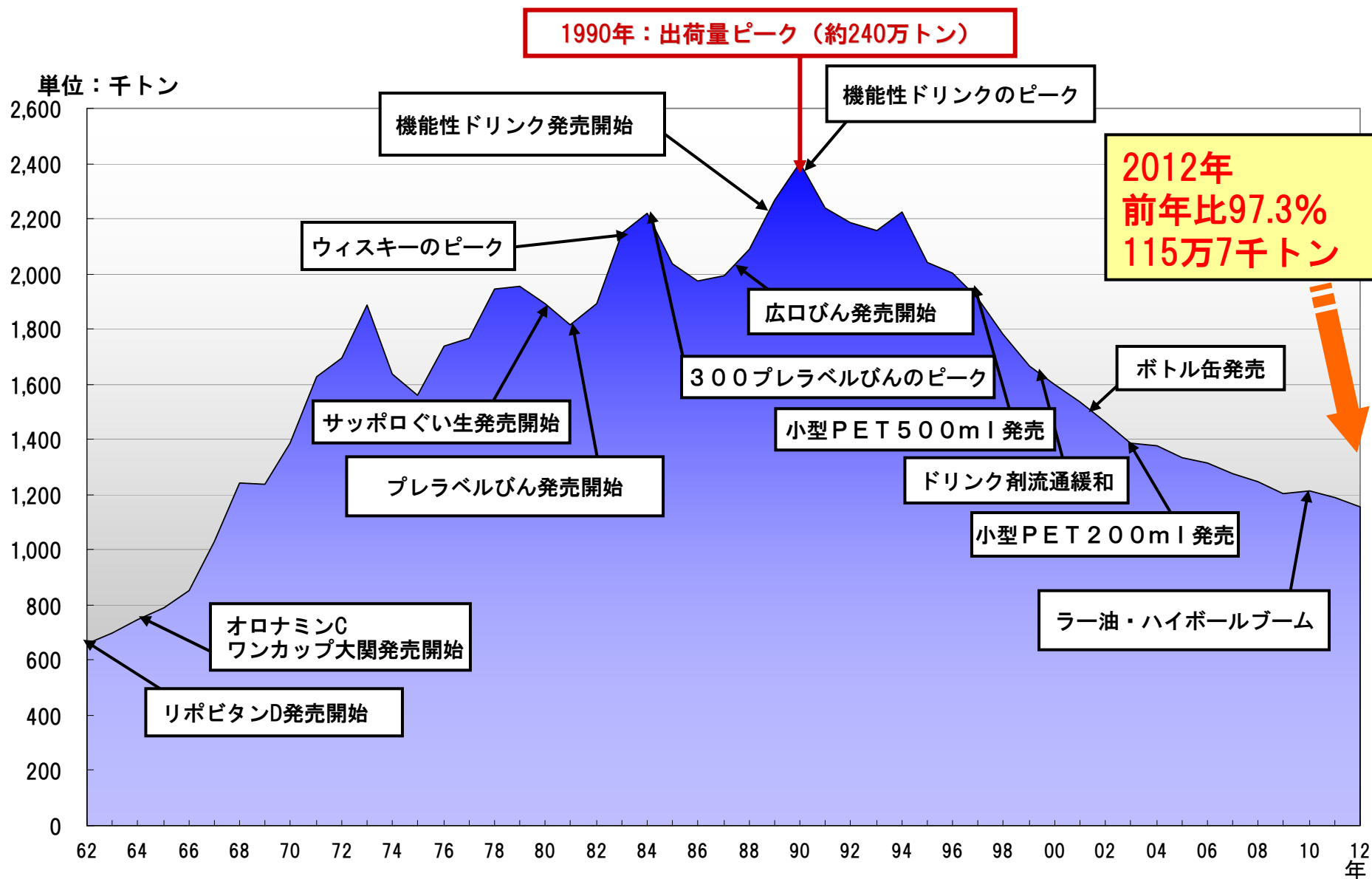
日本山村硝子株式会社

代表取締役社長 山村幸治

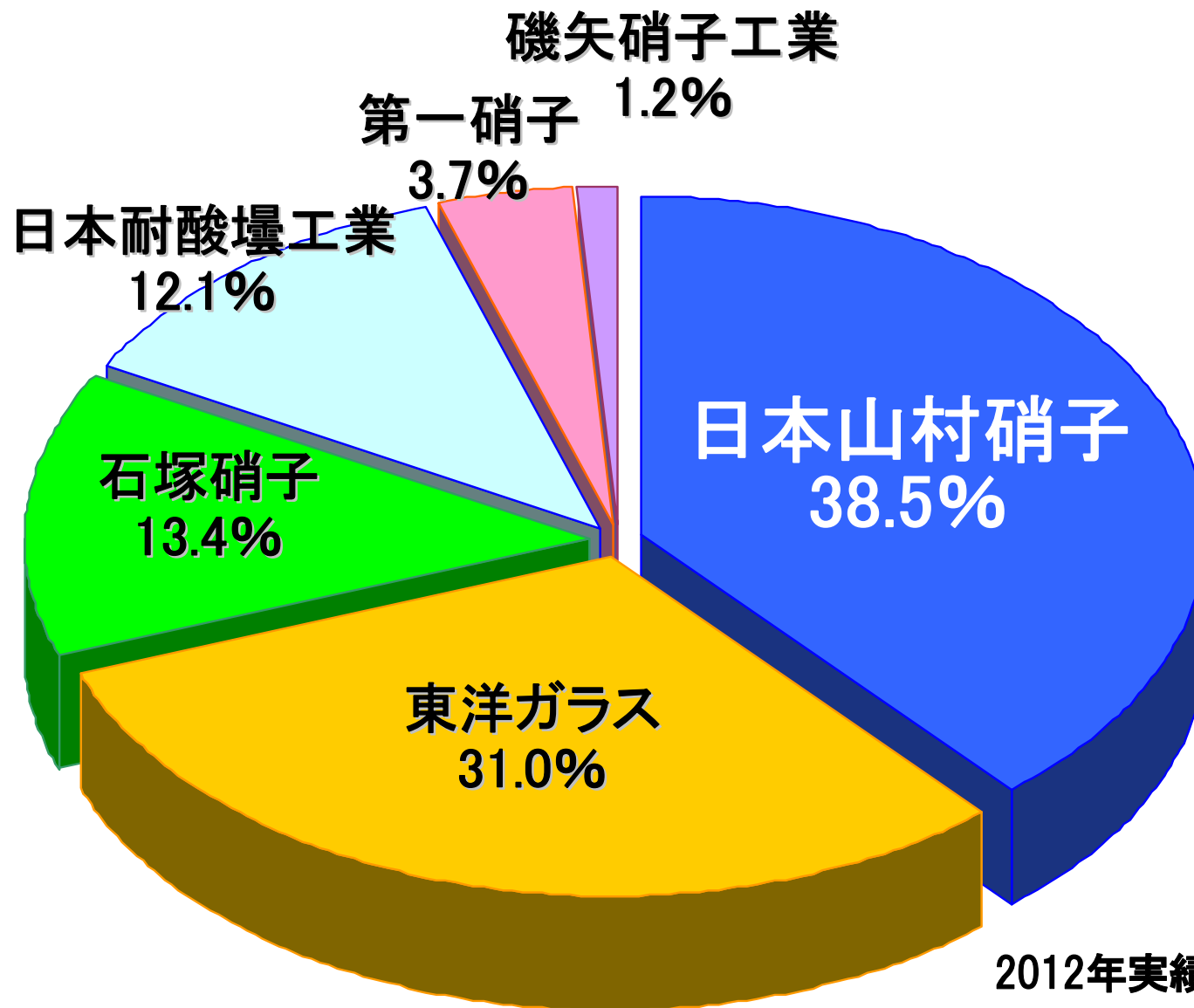
目次

- I 2013年3月期 決算内容
- II 2013年3月期 セグメント別業績と計画
- III トピックス

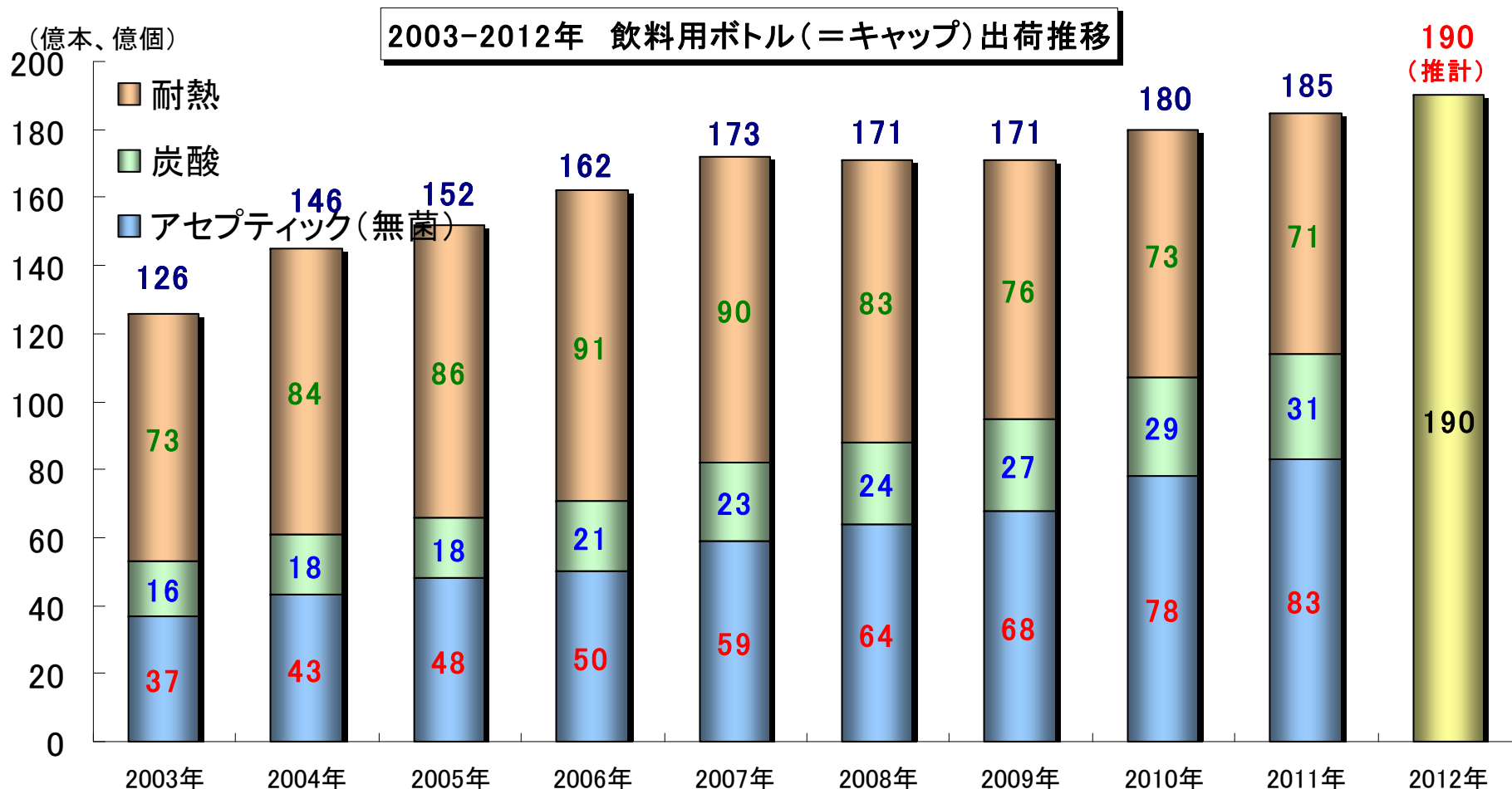
国内ガラスびん出荷量推移(実績)



業界動向(ガラスびん協会会社別シェア)



国内ペットボトル出荷量推移(実績)



- ・ 2008～2009年にかけては減少に転じたが、2010年以降は再び増加傾向。
- ・ アセプティック充填ボトルが耐熱ボトルを上回る傾向が依然として続く。

I 2013年3月期 決算内容

- ◇ 連結損益計算書
- ◇ セグメント情報
- ◇ 連結貸借対照表
- ◇ 連結C／F計算書

連結損益計算書

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2012/03	売上高比	2013/03	売上高比	増減額	増減率
売上高	70,928	100.0%	70,539	100.0%	△ 389	△ 0.5%
営業費用	69,431	97.9	70,425	99.8	994	1.4
売上原価	58,121	81.9	59,133	83.8	1,011	1.7
販売費及び一般管理費	11,310	15.9	11,292	16.0	△ 18	△ 0.2
営業利益	1,497	2.1	114	0.2	△ 1,382	△ 92.4
営業外収益	1,172	1.7	978	1.4	△ 194	△ 16.6
受取利息	16		4			
受取配当金	79		66			
持分法による投資利益	762		643			
その他	314		264			
営業外費用	615	0.8	576	0.8	△ 39	△ 6.4
支払利息	343		332			
その他	271		243			
経常利益	2,054	2.9	516	0.7	△ 1,537	△ 74.9
特別利益	2	0.0	903	1.3	900	31,173.6
固定資産売却益	2		-			
特別修繕引当金戻入額	-		903			
特別損失	355	0.6	612	0.9	257	72.2
災害による損失	136		-			
固定資産廃棄損	74		82			
固定資産売却損	-		3			
減損損失	-		456			
投資有価証券評価損	117		-			
支払補償金	27		-			
たな卸資産廃棄損	-		71			
税金等調整前当期純利益	1,701	2.4	806	1.1	△ 894	△ 52.6
当期純利益	975	1.4	209	0.3	△ 765	△ 78.5

セグメント情報

セグメント	決算期	売上高	セグメント利益	利益率	概況
		(百万円)	(百万円)	(%)	
ガラスびん 関連事業	13/03期	36,368	△ 557	-	ガラスびん需要が引き続き漸減する中、価格改定の効果もありセグメント売上高は前期並を維持。しかし原燃料価格の高止まりや溶解炉の定期修繕費を減価償却費・労務費等の削減では吸収できず損失となった。
	12/03期	36,372	300	0.8%	
	増減率	100.0%	-		
プラスチック 容器関連事業	13/03期	10,645	252	2.4%	当期より従来非連結子会社であった展誠を連結対象としたものの、国内でのペットボトル・キャップの売上は低調に推移し減収。また電気料金の上昇等の費用増に加え、販売単価の下落もあり減益となった。
	12/03期	10,789	792	7.3%	
	増減率	98.7%	31.9%		
物流関連事業	13/03期	11,443	271	2.4%	新規顧客の開拓に努めた結果増収となったが、既存契約業務の価格改定要請が強いことや新規業務の立ち上げ時の費用負担および労務費上昇等のコストアップにより減益となった。
	12/03期	11,008	300	2.7%	
	増減率	103.9%	90.4%		
ニューガラス 関連事業	13/03期	3,874	△ 147	-	山村フォトニクス(株)は増収となったが国内家電メーカーの不調により当社ニューガラスカンパニーのプラズマディスプレイパネル用粉末ガラスの出荷量減で減収。外注費・労務費・減価償却費の削減に努めたが、減益となった。
	12/03期	4,494	△ 69	-	
	増減率	86.2%	-		
その他	13/03期	8,207	130	1.6%	当社エンジニアリング事業は増収となったものの、子会社2社が減収となり、セグメント売上高は減収。しかし、ガラスびんの生産効率の改善等により増益となった。
	12/03期	8,263	93	1.1%	
	増減率	99.3%	139.0%		

※百万円未満切捨

(注)セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

連結貸借対照表(資産の部)

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2012/03末	2013/03末	増減額
流動資産	41,357	39,207	△ 2,150
現金及び預金	10,752	8,807	△ 1,945
受取手形及び売掛金	19,617	19,484	△ 133
商品及び製品	6,746	6,996	249
仕掛品	439	446	7
原材料及び貯蔵品	2,041	2,407	366
その他	1,805	1,076	△ 728
貸倒引当金	△ 45	△ 11	34
固定資産	50,644	54,071	3,426
有形固定資産	29,962	29,680	△ 281
無形固定資産	350	320	△ 30
投資その他の資産	20,332	24,070	3,737
投資有価証券	2,821	3,499	677
関係会社株式	14,213	18,188	3,975
その他	3,355	2,434	△ 920
貸倒引当金	△ 57	△ 52	5
資産合計	92,002	93,278	1,276

連結貸借対照表(負債・純資産の部)

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2012/03末	2013/03末	増減額
流動負債	17,252	16,409	△ 842
支払手形及び買掛金	7,354	7,134	△ 220
短期借入金	6,212	5,261	△ 951
その他(1年内社債含む)	3,685	4,014	328
固定負債	24,112	23,349	△ 762
社債	1,000	1,000	-
長期借入金	15,030	14,980	△ 50
退職給付引当金	3,098	3,078	△ 19
特別修繕引当金	4,442	3,541	△ 901
その他	541	749	208
負債合計	41,364	39,759	△ 1,605
資本金	14,074	14,074	-
資本剰余金	17,300	17,300	△ 0
利益剰余金	25,958	25,667	△ 290
自己株式	△ 1,219	△ 1,222	△ 2
その他有価証券評価差額金	220	661	440
繰延ヘッジ損益	35	△ 0	△ 35
為替換算調整勘定	△ 5,775	△ 3,009	2,765
少数株主持分	44	47	2
純資産合計	50,638	53,519	2,881
負債及び純資産合計	92,002	93,278	1,276

連結C/F計算書(要約)

単位:百万円(百万円未満切捨)

	2012/03	2013/03	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	4,153	2,538	△1,614
投資活動によるキャッシュフロー	△3,556	△3,136	419
財務活動によるキャッシュフロー	△1,951	△1,624	327
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	20	19
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,353	△2,202	△849
現金及び現金同等物の期首残高	12,106	10,752	△1,353
新規連結に伴う現金及び現金同等物増加	-	256	256
現金及び現金同等物の期末残高	10,752	8,807	△1,945

2012/03期主な項目

◇ 営業活動キャッシュフロー

- ① たな卸資産の増加(△1,056)
- ② 仕入債務の減少(△711)
- ③ 税金等調整前当期純利益(1,701)
- ④ 減価償却費(4,618)

◇ 投資活動キャッシュフロー

- ① 有形固定資産の取得による支出(△2,824)
- ② 貸付けによる支出(△697)

◇ 財務活動キャッシュフロー

- ① 長期借入金の返済による支出(純額で△1,200)
- ② 配当金の支払額(△682)

2013/03期主な項目

◇ 営業活動キャッシュフロー

- ① 持分法による投資利益(△643)
- ② 特別修繕引当金の減少(△901)
- ③ 税金等調整前当期純利益(806)
- ④ 減価償却費(3,806)

◇ 投資活動キャッシュフロー

- ① 貸付金の回収による収入(791)
- ② 有形固定資産の取得による支出(△3,051)
- ③ 関係会社株式の取得による支出(△757)

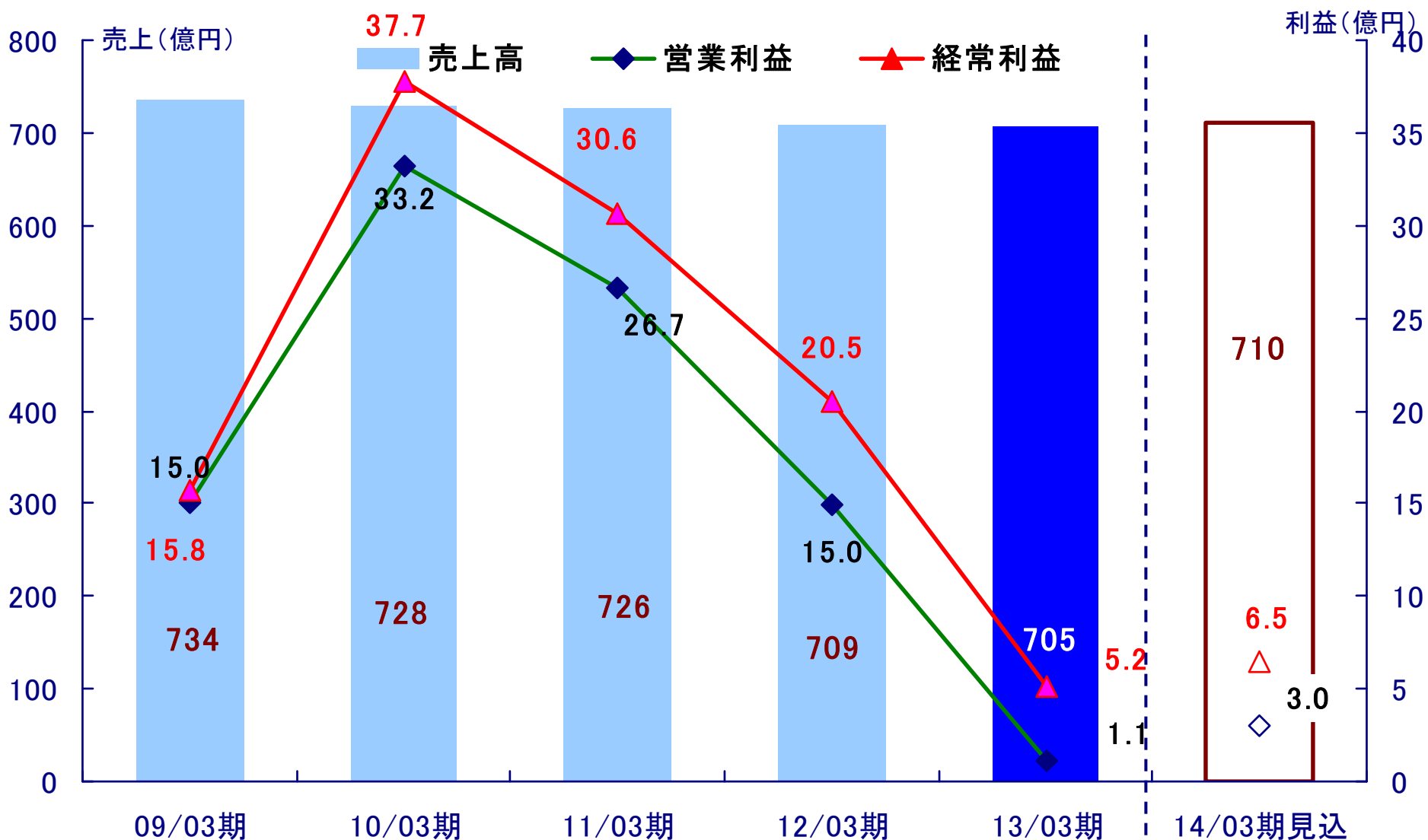
◇ 財務活動キャッシュフロー

- ① 長期借入金の返済による支出(純額で△1,300)

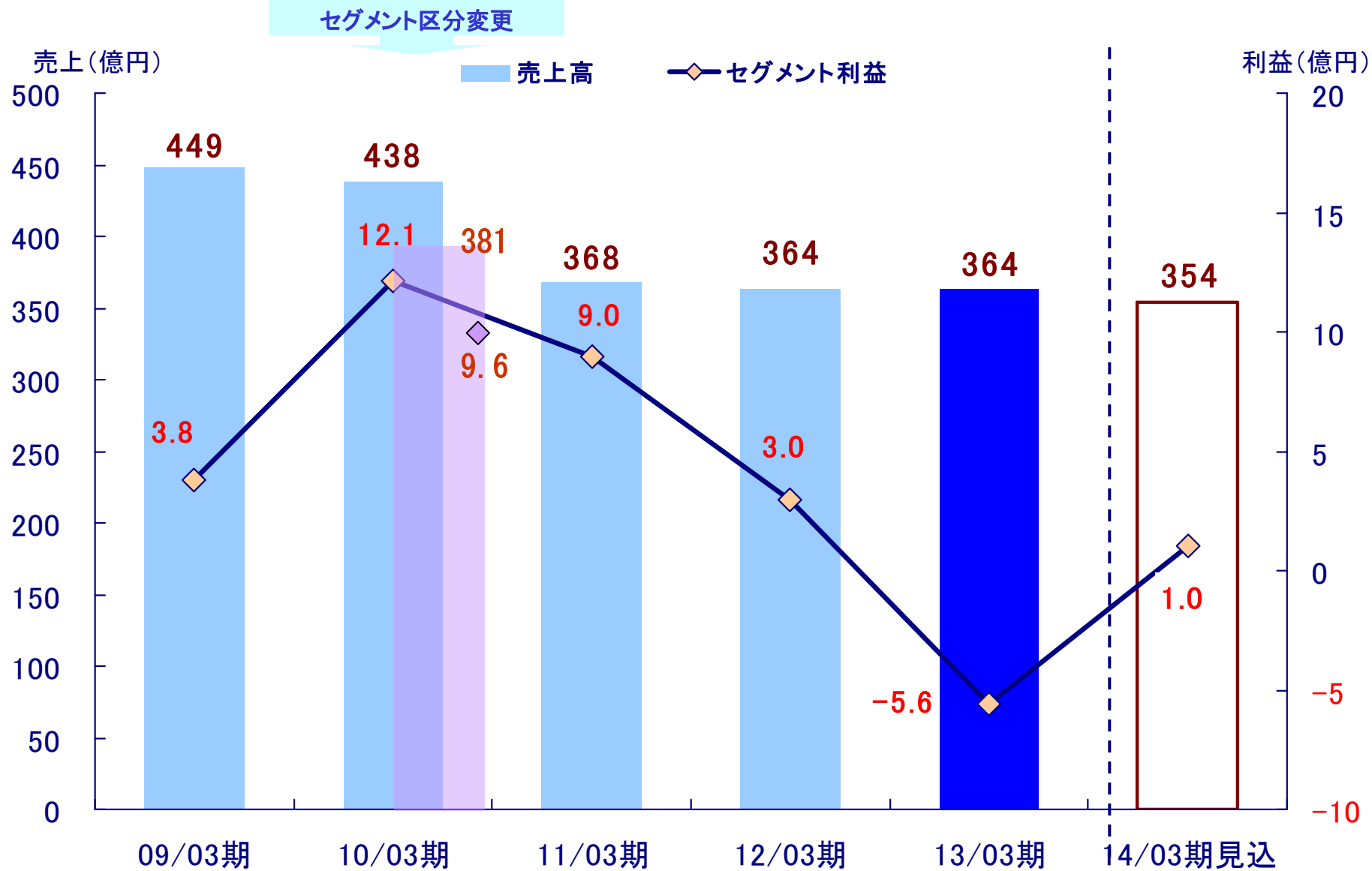
Ⅱ 2014年3月期 セグメント別業績と計画

- ◇ 連結及びセグメント別業績と計画
- ◇ (ご参考) 海外関係会社の業績推移

連結業績推移



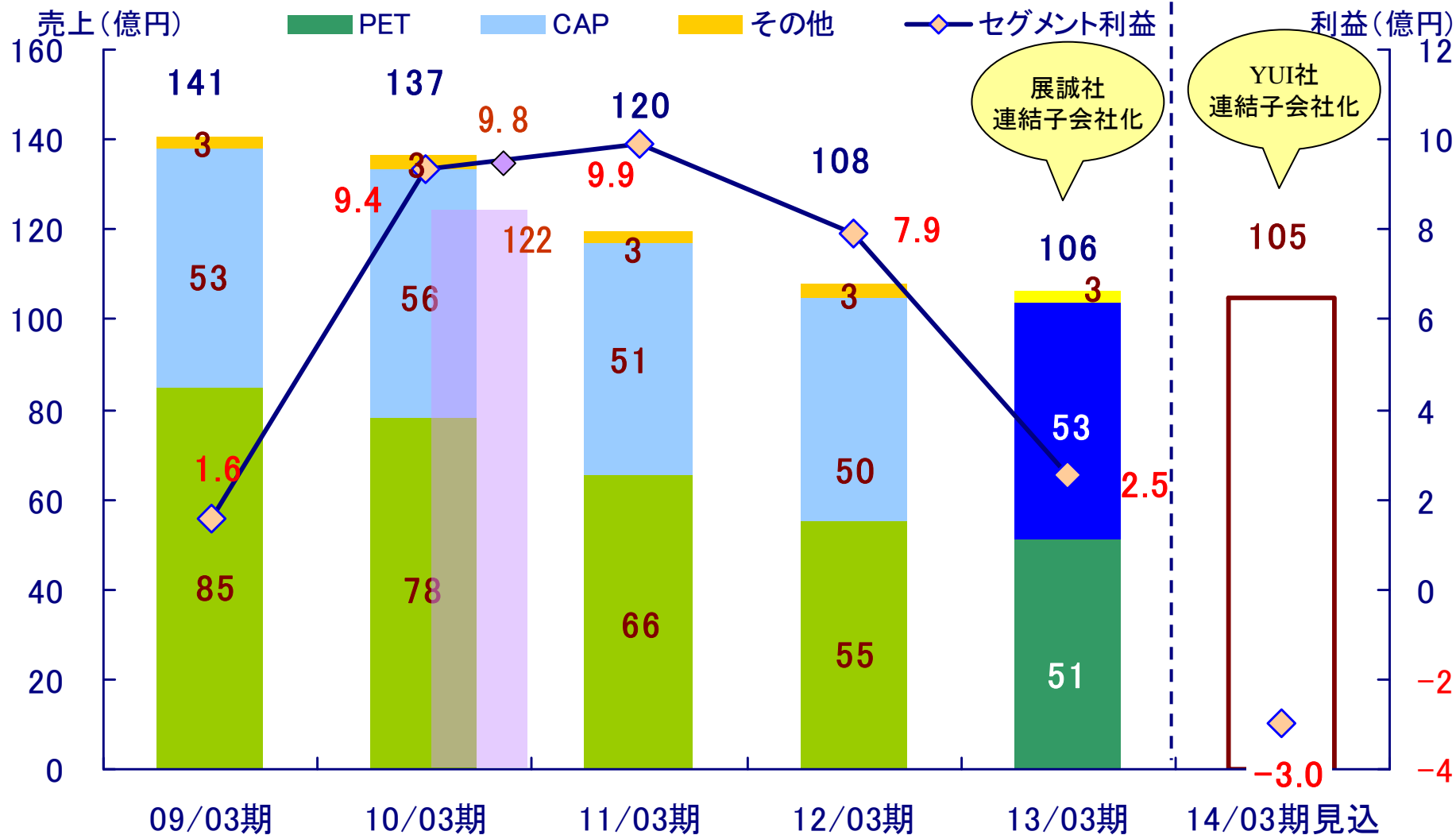
業績推移ーガラスびん関連事業



※新セグメントで遡及計算したもの

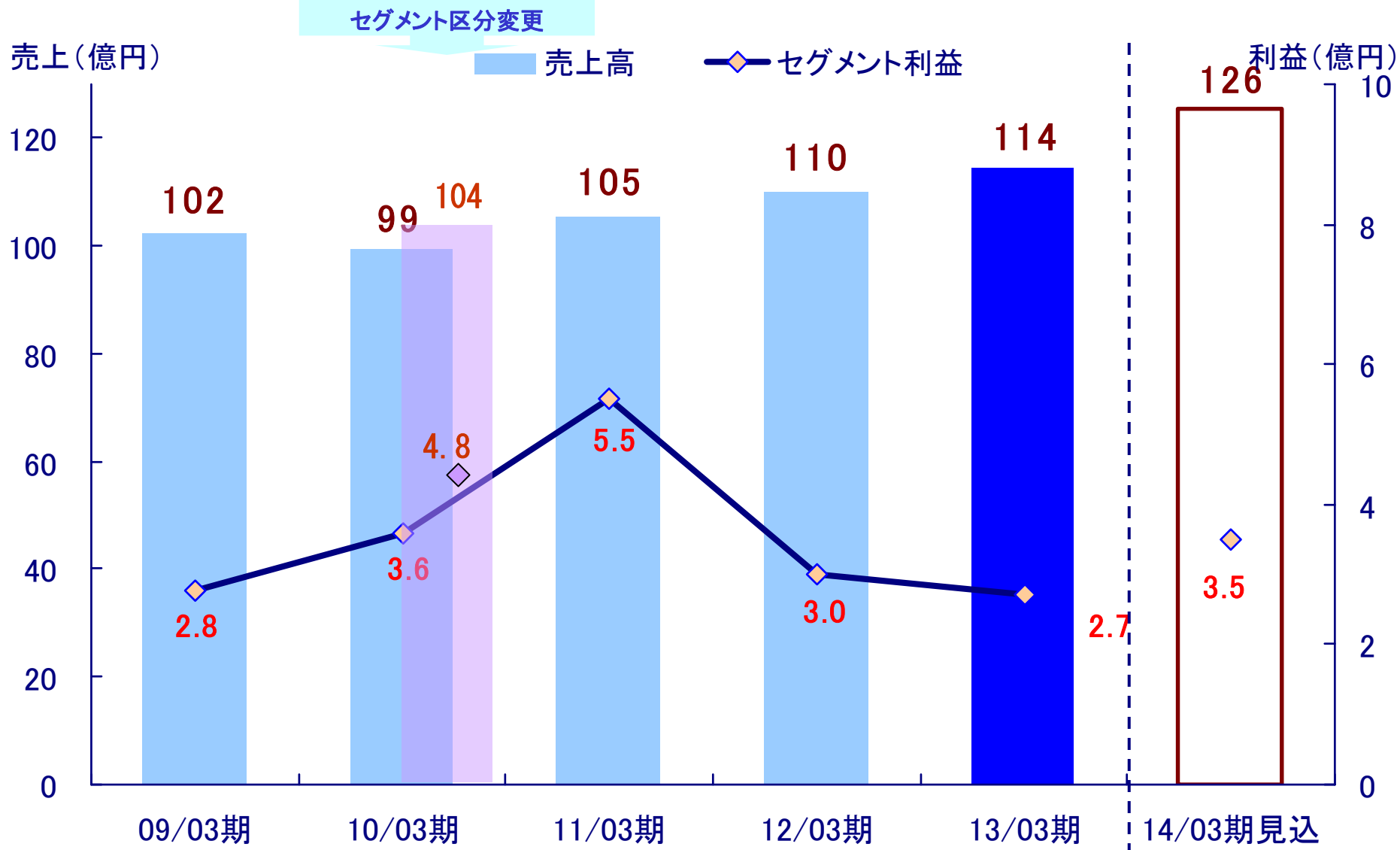
業績推移ープラスチック容器関連事業

セグメント区分変更



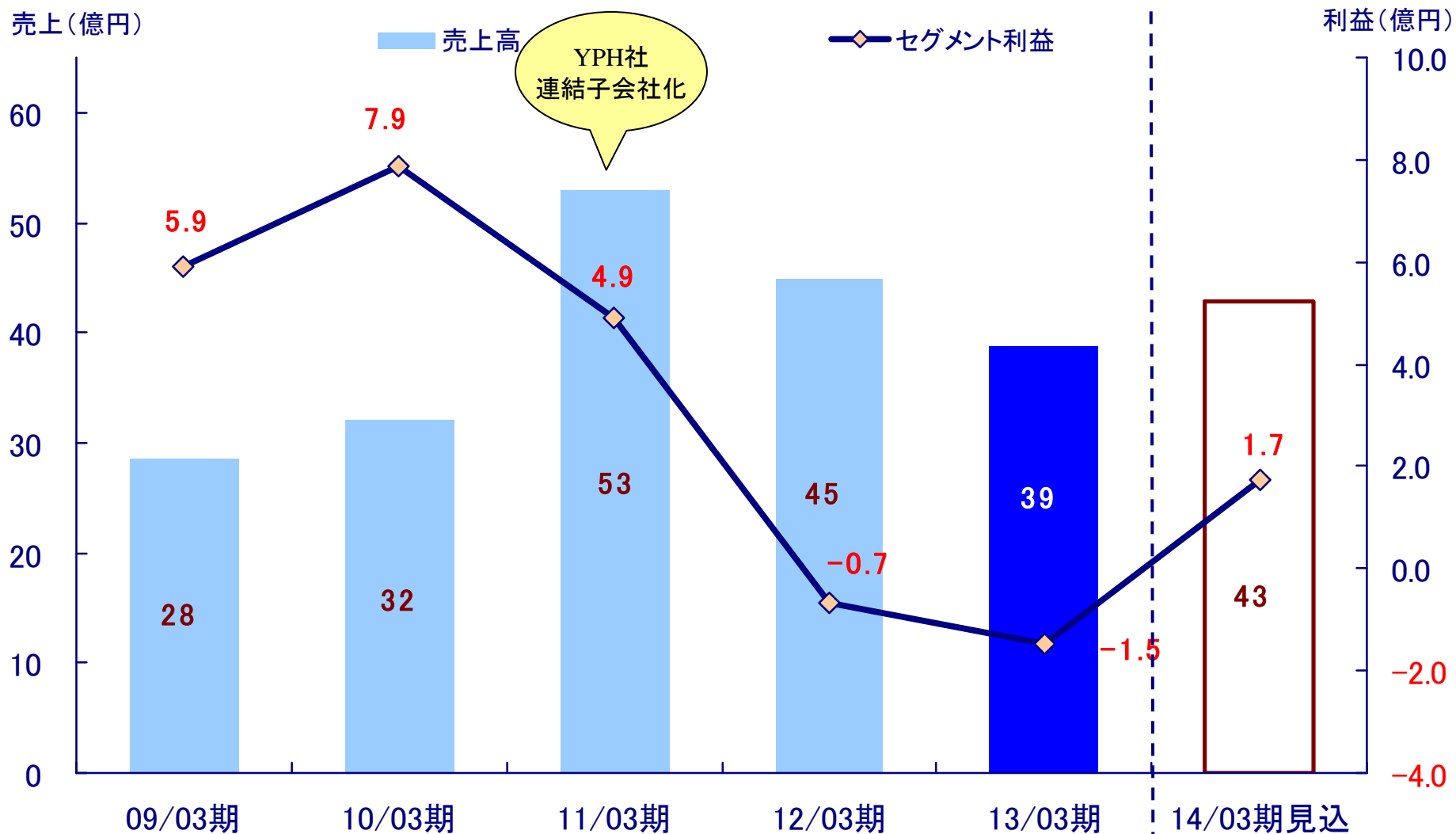
※新セグメントで遡及計算したもの

業績推移—物流関連事業



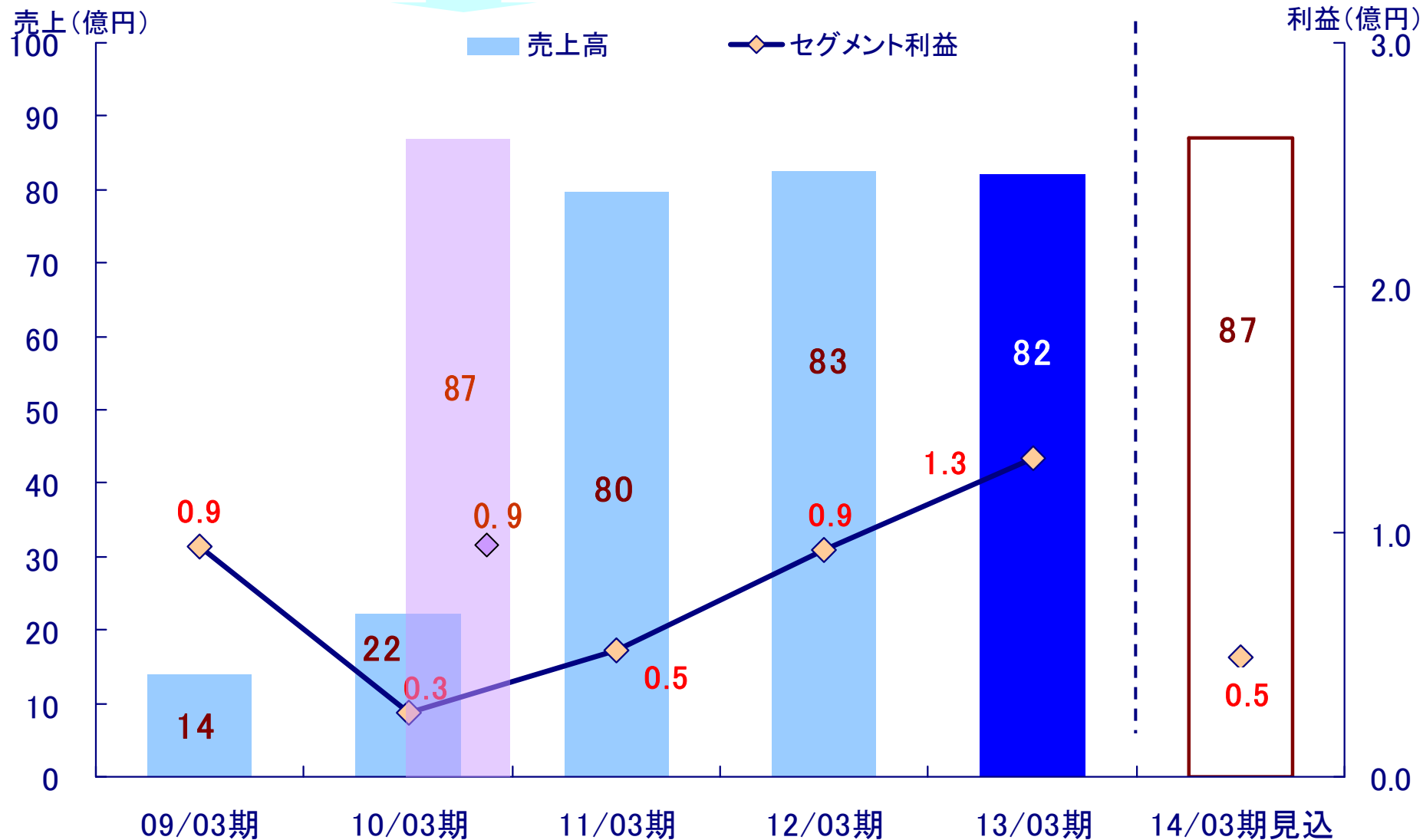
※新セグメントで遡及計算したもの

業績推移ーニューガラス関連事業



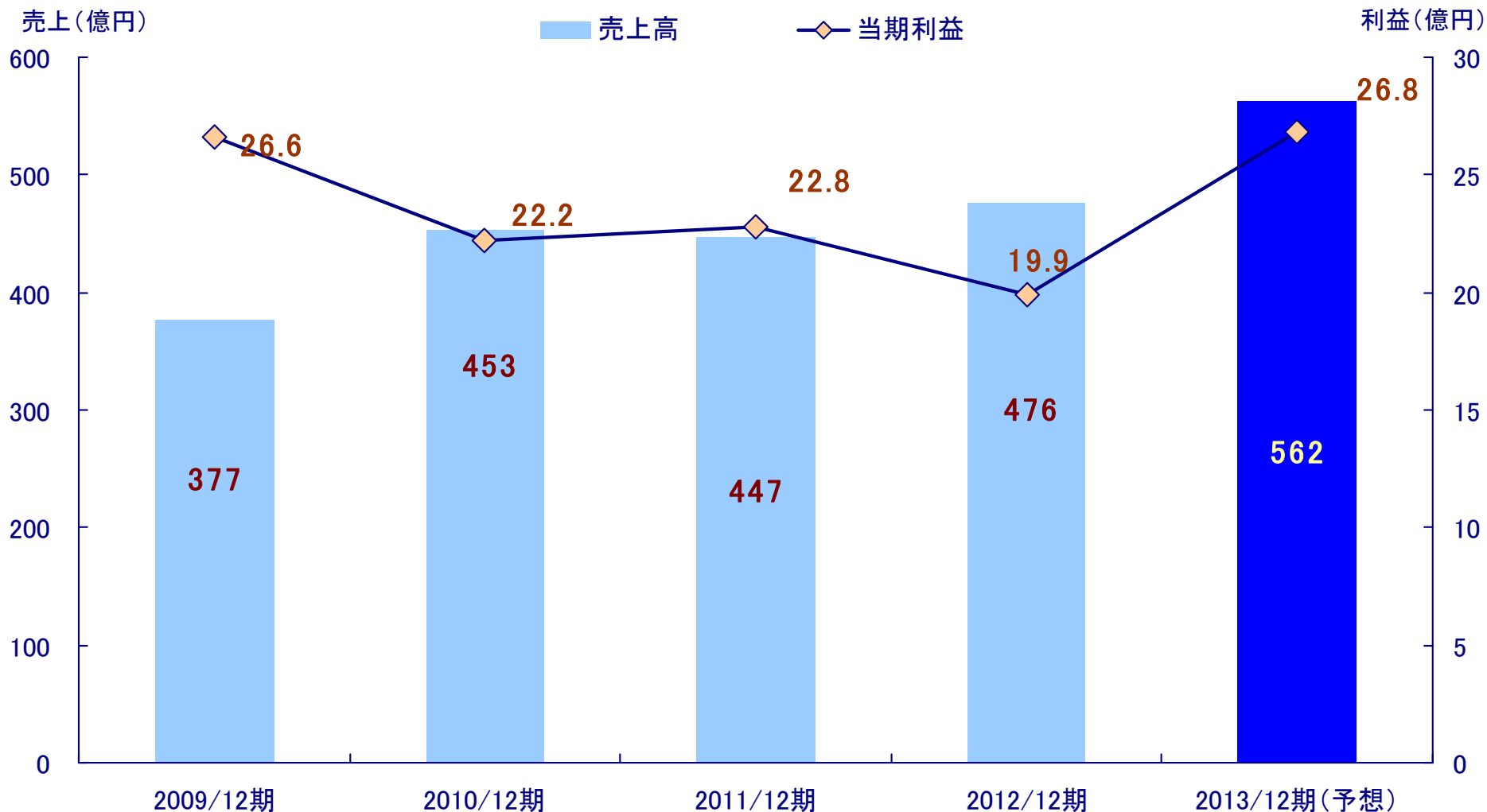
業績推移—その他

セグメント区分変更



※新セグメントで遡及計算したもの

ご参考：海外関係会社の業績推移



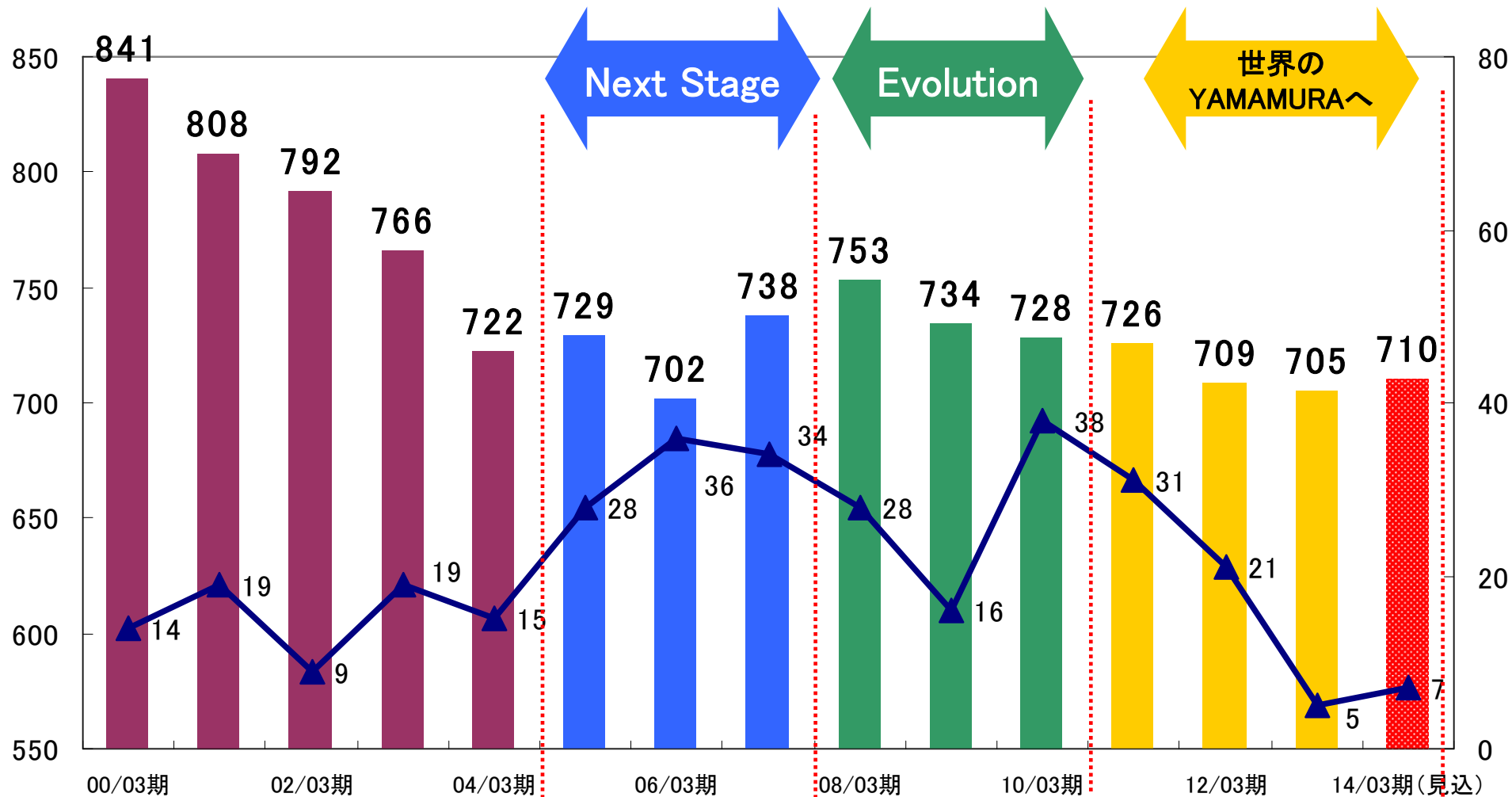
注) 当社の利益は持株比率となります。

業績の推移

■ 売上高(連結)

▲ 経常利益(連結)

単位: 億円



収益改善策を発表(2013年3月11日)

◇ ガラスびんカンパニーの生産体制見直し

平成26年3月期に大阪工場(大阪府高槻市)の操業を停止し、閉鎖します。

◇ 経営責任の明確化

代表取締役社長の報酬を50%、その他の取締役の報酬を30~20%、執行役員報酬を15%、それぞれ1年間減額します。

◇ 人員削減

今後、希望退職の募集等により、全社で100名程度の人員削減を図ります。

◇ 給与の減額

管理者は1年間、5%の減額とします。

◇ 定期昇給の中止

平成25年度における定期昇給を中止します。

(今後の見通し)

平成26年3月期は年間2億円程度、平成27年3月期以降については年間20億円程度の固定費の削減を見込んでおります。

トピックス

- ◆「東京パック2012」へ出展
- ◆「グラステック2012」へ出展
- ◆宇都宮工場で製造ラインを増設
- ◆FSSC22000認証取得
- ◆「Neo Ceramics 2013」へ出展
- ◆中国のガラスびん製造会社の子会社化について
- ◆「CSR報告書2012」が受賞
- ◆宇都宮工場で太陽光発電を開始

トピックス

「東京パック2012」へ出展

日本包装管理士会が「環境に配慮した包装」「ユニバーサルデザイン」をテーマとして行った出展に当社研究開発センターが参画しました。

当社は「ネクストパッケージの開発」をテーマに取り組んでいるフィルム製立体容器「PGP®(POLYGON PACK®)」を出展し、好評を博しました。

- ◆名称 TOKYO PACK 2012
- ◆会期 2012年10月2日～5日
- ◆会場 東京ビッグサイト
- ◆出展者数 600社
- ◆来場者数 65,311名
- ◆当社ブースへの訪問者数 約900名



トピックス

「グラステック2012」へ出展

ドイツ・デュッセルドルフで行われた「グラステック2012」に出展しました。
当社ブースでは、マルチビリ検査機、軽量化技術、 μ -コートなど7つのテーマを紹介し、
今後のビジネスにつながるコミュニケーションを多く持つことができました。

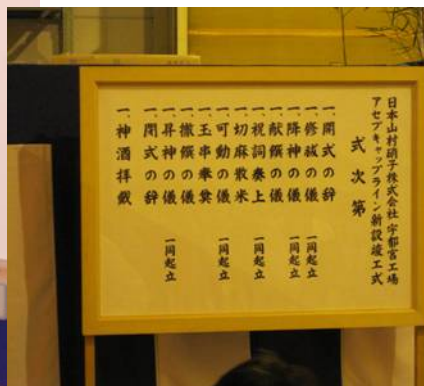


- ◆名 称 Glasstec 2012
- ◆会 期 2012年10月23日～26日
- ◆会 場 ドイツ・デュッセルドルフ見本市会場
- ◆出展者数 1,162社
- ◆来場者数 43,183名
- ◆当社ブースへの訪問者数 約120名

トピックス

宇都宮工場でプラスチックキャップ製造ラインを増設

飲料用プラスチックキャップの拡売を図るため、
プラスチックカンパニー宇都宮工場において、
プラスチックキャップの製造ライン「S-13」を増設しました。



2012年12月21日 竣工式

トピックス

FSSC22000認証取得

食品包材を製造・販売するガラスびんカンパニーとプラスチックカンパニーの4工場(東京工場、埼玉工場、関西工場、宇都宮工場)は、食品安全マネジメントシステムである「FSSC22000」の認証を取得しました。

国際的に注目される仕組みの導入によって、ブランド力の強化や国内外への市場参入を進めるべく、より安全で高品質な食品容器の製造を行ないます。



2012年8月吉日付 通達

埼玉工場 食品安全目標

ガラスびんカンパニー生産本部
埼玉工場 工場長 三浦 久嗣

5Sと3定の徹底を図り
「にくい!」を半減する。

埼玉工場 FSSC22000推進 工場の課題目標とする。

S	整理	必要な物と不要な物を分けて、不要な物を捨てる事。
	整頓	必要な物がすぐに取り出せるように、置き場所、置き方を決めて、表示を確実に行う事。
	清掃	掃除をして、ゴミ、汚れのない綺麗な状態にすると同時に、細部まで点検する事。
	清潔	整理・整頓・清掃を徹底して実行し、汚れのない綺麗な状態を維持する事。
	しつけ	決められた事を決められたとおりに実行できるように、習慣づける事。
3定	定められた場所	物の置き場所の区画表示を明確にする。整理棚の設置等で解りやすくする。(見える化を標準とする。)
	定められた物	工場内で不要品と思われる物(大型設備から原材料、仕掛品まで)を分別して処分する。現場には物を置かない!(異物混入防止)
	定められた量	整理整頓してピカピカ運動推進し工場設備のアカ落としを実施し必要な量だけを置く。(無駄使いを無くす!)

食品包装メーカーとして、お客様に「安全」「安心」はもとより法規制、合意した顧客要求事項を厳守し、一層の食品安全マネジメントに取り組み、埼玉工場の全従業員が全員参加で工場の課題である食品安全目標の達成に向けて、見直し改善を実施して参ります。

以上

トピックス

「Neo Ceramics 2013」へ出展

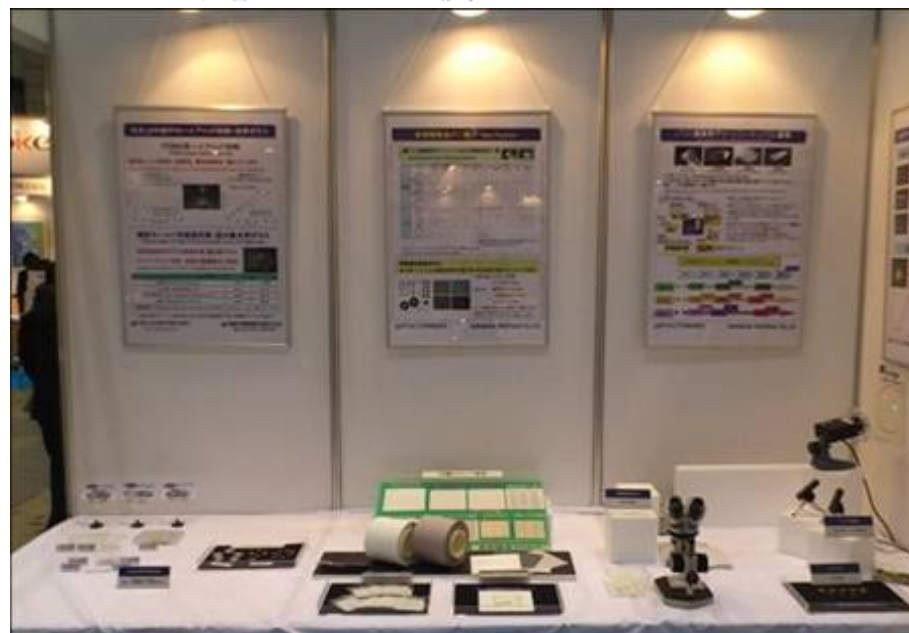
東京ビッグサイトで行われた「Neo Ceramics 2013」に、山村フォトニクス社と当社ニューガラスカンパニーが共同出展しました。

当社ブースでは、両社の主力商品を中心に多くの製品サンプルを展示し、来場者様からの多くのご質問をいただきました。

- ◆名 称 Neo Ceramics 2013
- ◆会 期 2013年1月30日～2月1日
- ◆会 場 東京ビッグサイト
- ◆出展者数 1,269社
- ◆来場者数 46,846名
- ◆当社ブースへの訪問者数 131名

Neo Ceramics 2013

先端セラミックス&機能性ガラス



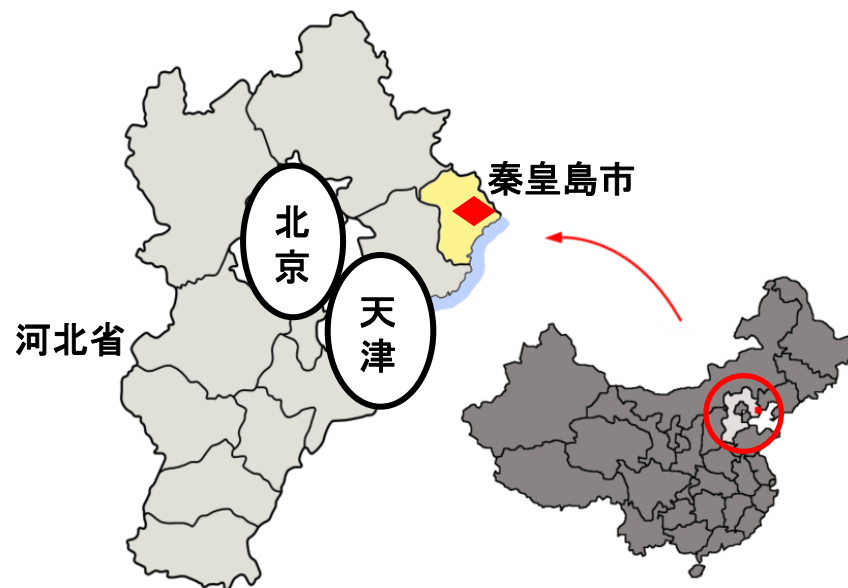
トピックス

中国のガラスびん製造会社の子会社化に関する覚書を締結

当社は、伸張著しい中国ワイン市場を鑑み、中国河北省でワインびん等の製造・販売を行なっている秦皇島方圓包装玻璃有限公司を子会社化すべく、持分80%を取得するための覚書を締結しました。

対象会社の概要

- (1) 会社名 秦皇島方圓包装玻璃有限公司
(英文名 Qinhuangdao Fangyuan
Package Glass Co., Ltd.)
- (2) 所在地 中国河北省秦皇島市
- (3) 創業 1958年
- (4) 主な事業内容 ガラスびんの製造・販売
- (5) 決算期 12月
- (6) 資本金 14,334千元(約215百万円)
- (7) 最近の業績
2012年度売上高：約256百万元(約38億円)



トピックス

「CSR報告書2012」が環境コミュニケーション大賞奨励賞を受賞

環境省と(財)地球・人間環境フォーラムが優れた環境コミュニケーションを表彰する「第16回環境コミュニケーション大賞」の受賞作が発表され、当社が発行した「CSR報告書2012」が奨励賞を受賞しました。

「環境コミュニケーション大賞」とは

優れた環境報告書等や環境活動レポート、及びテレビ環境CMを表彰することにより、事業者等の環境経営及び環境コミュニケーションへの取組を促進するとともに、環境情報開示の質の向上を図ることを目的とする表彰制度です。（環境省Webサイトより）



「CSR報告書2012」は当社Webサイトにてご覧いただけます。

<http://www.yamamura.co.jp/environ/index.html>

トピックス

宇都宮工場で太陽光発電を開始

当社プラスチックカンパニー宇都宮工場にて太陽光発電の設備を導入し、発電を開始しました(能力:0.58メガワット)。



発電設備



2013年4月2日 竣工式

世界のYAMAMURAへ
-心と技術を伝えたい-



この絵「Vision Art (ビジョンアート)」は、山村グループ経営幹部全員の「世界のYAMAMURAへ」に対する想いをアーティストに描いてもらったものです。山村グループが、創業以来育んできた「心と技術を通じ社会に貢献する」精神を大切に、世界に誇れる「YAMAMURA」ブランドを確立したい、その意志を1枚の絵で表現しています。皆さんはこの絵から、何を感じますか？

日本山村硝子株式会社

ご清聴

ありがとうございました。

 日本山村硝子株式会社